

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2874400308-00">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2874400308-00</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成30年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近隣には小学校や公民館があり、自然豊かな環境にも恵まれた場所にある。窓からは四季折々の景色が楽しめ、空を見ればコウノトリが飛ぶ姿も見られる。地域の行事参加や季節ごとの外出も心掛けている。・グループホーム理念である「笑顔で楽しく」をモットーに、利用者に寄り添いながら支援している。・家族会や行事を連携し、家人面会の機会や家族交流を増やし、報告・連絡・相談を行い、家族との信頼関係の構築に努めている。また、こまめにアルバムを整理し、面会時にアルバムを見ながら報告を行っている。・特養・デイサービスも併設しており、行事参加や必要時には機械浴も使用出来ている。機能低下しても特養への入所も検討しやすく、家人は安心されている。・研修や委員会、行事等も施設合同なので、利用者にとっては交流の場が増え、職員にとっては視野が広がる機会となっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々の暮らしを大切に、管理者はじめ職員は、「笑顔で楽しく」をモットーに活き活きしている事業所である。地域密着型独自の方針も加えて、日々利用者家族との信頼関係を軸に支援している。このとりで有名な自然豊かな地域の良さを活かしたり、近くにある中嶋神社にも散歩に行ったり、近隣の小学校などの行事にも行ったり来たり交流を続けている。運営推進会議はもちろん、家族会も定期的に、多くの利用者、家族や職員との交流が盛んに行われている。家族会では、日ごろの暮らしぶりを伝えたり、一緒に行事を行って楽しんだり、共に利用者を支える重要な役割のひとつとなっている。管理者は、職員の育成にも力を注いでおられ、日々のケアを通して事業所の理念は確実に受け継がれている。事業所内の研修に関する実施と記録については、その重要性を理解されているので、今後の取組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・グループホームの理念を掲げ、職員で共有している。職員育成の際にも、困ったときには理念を思い出すように指導している。また、新たに地域密着型サービスの意義をふまえた方針も明文化した。	法人理念に基づいて、事業所独自の理念「笑顔で楽しく」が掲げられている。それに加えて、地域密着型サービスの意義を職員全体で話し合い、具体的なサービスの実践に向けた指針が明文化され、方針として玄関に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報や地域のチラシを見て、イベントに参加している。近隣の小学校や幼稚園との交流もあり、運動会やマラソン大会の見学に参加している。地域の文化祭では施設職員が踊りに出演した為、応援に駆け付けた。	ガス屋さん、たじまうま、ファーマーズマーケット等で行われる地域イベントに参加したり、地域で行われる運動会、文化祭、マラソン大会の見学など行事に参加している。近隣の小学校や幼稚園の行事に招待されたり、また、事業所に来られるなど、地域の人々と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学には気軽に応じ、いつでもグループホーム内を開放している。今年度は地域コミュニティ福祉部との交流を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族と一緒に参加できる行事を計画し、出来るだけ顔なじみになれるようにと考えて開催している。	2か月に1回、定期的に運営推進会議が行われている。毎月行われる家族会に合わせて、利用者状況や行事について報告されている。内容や曜日を変え、なるべく多くの方に参加してもらえるように配慮されている。サービスについての質問や要望、アドバイスなど、色々な意見をいただいている。施設の評議員、元民生委員、地域包括職員、施設役員、家族・利用者職員等、参加するメンバーが固定化しており、言いやすい関係性ができている。また、自治会長さんや、老人会の方など、違った方々への参加を促し、地域の理解と支援を得るための働きかけに取り組んでほしい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の地域密着サービス連絡協議会に出席して困難事例等の勉強会をしている。	市の地域密着サービス連絡協議会に出席し、市の担当者と話し合う機会がある。現在は相談する困難事例はないが、以前は若年性認知症の方の支援について相談したこともあり、いつでも相談できる協力関係が築かれている。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会の中で事故報告書やヒヤリハットを義務付けている。また、年間の研修計画の中に身体拘束についての研修があり、周知している。	法人全体で行う研修計画の中で、身体拘束をしないケアが位置付けてある。グループホームから出席した職員が、ユニット会議において伝達研修を行っている。またヒヤリハットを義務付けられており、その中から、言葉について指導されている。玄関の施錠もなく、出かけたい時は職員が付き添って出かけている。身体拘束をしない取り組みが行われている。	今後は、研修記録を整備し、「指定地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる行為」や虐待防止関係法令についても学ぶ機会を持ち、さらなる研修の充実に期待する。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画の中に虐待防止についての研修があり、周知している。参加できない職員についてはユニット会議等で伝達している	法人全体で行う研修計画の中で、虐待防止について位置付けてある。グループホームから出席した職員が、ユニット会議において伝達研修を行っている。またヒヤリハットを義務付けられており、その中から、不適切なケアについて指導されている。個人のストレスチェックが行われ、個人面談を行い、仕事や生活の中の悩みなどを受け止めている。職員のストレスが、日々のケアに影響していないかを把握する取り組みが行われている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しようと検討している家族から相談されたこともあり、再度ユニット会議で話した。	成年後見制度を利用したいとの相談を受けた事例があり、それをきっかけにユニット会議で、勉強されている。またいつでも地域の方や家族の方が見れるように、パンフレットを玄関に設置されている。今後も、定期的な権利擁護に関する制度について学ぶ機会を継続してほしい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	待機者の面接は管理者とリーダーで自宅に訪問したり、施設に直接来ていただいて状態把握と説明を行っている。契約・解約・改定時には、利用者や家族の不安を除去できるよう、丁寧に説明するように努めている。	契約前に、必ず見学をしていただき、サービス内容や、事業内の様子を見ていただくようにされている。事前面談を行い、ご本人のご様子をうかがうようにし、契約時には、重要事項説明書を使用し、丁寧に説明されている。金額のことや、入院になった場合、退所になる場合の不安など、利用者、家族の質問には納得していただくまで十分説明を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事を開催して施設に足が向くように努めている。面会時には積極的に利用者の状態報告を行い、管理者不在でも介護職員が説明できるように指導している。また、毎月ケアプランのモニタリングを行い、本人・家人の意向が反映できるように努めている。	運営推進会議や毎月行われる家族会などで、家族からの意見を聴く機会としている。また個別で直接質問や意見を言ってこられたり、電話や手紙で伝えて来られる方もいる。家族と事業所の職員、管理者と日頃から何でも言える、信頼関係が構築されており、家族からの意見や要望に関しては、会議で話し合い、反映できるように努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議や個別面談で職員の意見を聞く機会を設けている。その他にも意見や提案は大歓迎であり、何事にもチャレンジして欲しいと指導している。	ユニット会議にて職員の意見や提案を聴く機会にされている。利用者に関する意見は出やすいが、運営に関する意見は、個別の面談の時や、日常のケアの中で、「次亜塩素の加湿機能付き空気清浄機がいいのではないか。」など、気付いたことをその場では発言することが多く、それを会議で共有し反映されている。設備に関しては法人本部に報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より職員の実績評価をボーナスに反映する取組を行った。日頃から職員の話聞きやすい職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の時はエルダー制度を設け、一年かけて成長を見守っている。地域密着事業者での研修や長寿の郷派遣研修、施設内外等の研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会で同業者と交流する機会がある。昨年に続き今年度も役員をしている為、特に交流する機会が多く、勉強会の活動も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面接を行い、不安や要望をうかがうようにしている。入所後も関わりを密にし、安心して暮らせるための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に家人の意向をうかがっている。入所後も安心できるよう状態報告に努めている。行事や家族会の参加を呼びかけ信頼関係の構築に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの面談時からグループホーム入所が適切な のか、併設の特養が適切なのか情報収集に努め判断 している。事前面接時にも担当ケアマネジャーから情報 収集を行い、見極めに努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	職員は入居者の思いに寄り添い、共有できるように支援 している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会参加を呼びかけ、面会し易い環境作り に努めている。面会時にはご家族がゆっくり過ごせるよ うに配慮し、ご家族からの情報収集や状態報告を行い、 利用者の現状を共有している。ご家族と入居者との外出 支援も行っている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	特養入所中の知人に会いに行ったり、グループホームに 来ていただいたりして関係を継続させている。自宅周辺 のドライブ外出や自宅外出の支援は本人家人も喜ばれ ている。グループホームで親戚が顔を合わせることもあ る。レストランに親戚が大勢集まり、米寿のお祝いパー ティーを家族が計画してくれ送迎の支援をしたり、空き家 になっている自宅が気になる入居者の自宅で家族会を 開催して、大変喜ばれた。	家族の協力を得て墓参り、法事、結婚式に出かけら れている。自宅周辺をドライブしたり、併設のデイサー ビスや特別養護老人施設の知人に会いに行かれる など同行支援がなされている。また、空き家になっ ている自宅が気になる利用者のために、その家で家族 会を開催するなど、馴染みの場所や人との関係が切 れないように、関係継続支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	孤立しそうな利用者に対しては、職員が間に入りコミュニ ケーションを図っている。また、利用者が気にかけてく れ、傍に来るように声をかける姿も見られている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これま での関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	殆どが死亡か特養入所での退所となる。併設の特養入 所になっても面会に行ったり、グループホームに遊びに 来て交流が保持できている。面会時や合同行事の際、 ご家族に出会った際には声を掛けさせて頂き、困ったこ とは無いか尋ねフォローしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や計画作成担当者、担当職員が中心となり本人の思いに寄り添えるよう聞き取りを行い、ケース記録や連絡帳で周知している。困難な場合はユニット会議で相談し、本人本位のケアが適うように検討している。	日常の何気ない会話の中で、職員に、ポツリと言われた利用者の思いを聴き流さずに、聞き取ったことは連絡帳に記録し、ユニット会議などで情報を共有している。意向の把握が困難な場合には、ユニット会議で表情や職員が感じたことを話し合い、ご本人の立場からどうしてほしいのか等検討している。入居時の概況表を基に再アセスメントを行い、本人の思いや意向の変化を記録で確認してほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家人からできるだけ詳しく生活歴や暮らし方を収集し、共有している。入所以降も新情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前の様子、午後の様子、夜間の様子、受診、面会、外出等とパソコン入力のケース記録や連絡帳で現状の把握を行っている。特変時には赤字で入力する為、把握しやすい。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や行事開催時にうかがった家人からの意向はケース記録に残している。特に状態悪化時には終末期の意向に変わりはないか確認している。月に一回のモニタリングを行い、半年ごとの介護計画書の見直しに活用している。介護計画書作成時にはカンファレンスを開催している。	毎月、利用者担当者がモニタリングを行い、本人の意向を把握して。半年ごとに担当者会議を行い担当者、計画担当者、管理者などで介護計画を作成されている。家族の要望や本人の希望を聴きながら介護計画に反映されている。利用者の状況に応じて、看護師や協力医のアドバイスを盛り込むようにし、現状に応じた介護計画作成に努めている。	地域活動や利用者の生活支援に目を向け、再アセスメントを状況に応じて記録し、本人のしたいことや思いを明確に記載するとともにそれを計画に盛り込み、今支援されていることが活かされる計画作成に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や連絡帳で状態把握し、職員間で共有しながらモニタリングに反映し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事参加の支援や受診対応、その他にも本人家人の希望や職員の意見を聞きながら、柔軟な支援をしたいと考えている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の踊りや歌のボランティア訪問があり楽しめている。また、地域で開催するイベントにも参加したり、小学校や幼稚園の訪問もある。	/	
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診の意向をうかがい、本人家人の希望に沿うようにしている。殆どの利用者は、近隣のかかりつけ医に定期受診の支援を行い、家人には受診報告を行っている。かかりつけ医との関係も良好で、急変時には往診を受けたり、専門医への紹介もして頂いている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務であるが、日中は常時看護師がおり、困った事は相談できており指示も得ている。夜間もオンコール体制をとっている。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を提供している。入院中には面会に行き、家族との連携も図っている。退院前のカンファレンスができれば参加し、退院後のケアにつなげている。		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、施設で出来る事出来ない事を本人家人に説明し、重度化した時の意向を書面で伺っている。その後も身体レベルの変化に合わせ、その都度意向に変化は無いか尋ねるように努めている。実際に看取りの支援も行っている。	入居される時に、家族が一番不安に感じている、終末期に向けたケアについて十分説明され、「本人にとって最善と考える終末期の在り方について」等家族の意向を同意書としてまとめている。看取り事例もあり、事業所と家族、医療関係者が連携して終末期のケアに取り組んでいる。今後は、重度化した場合の事業所としての支援の在り方や方針を取りまとめ文書化することが望まれる。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、目につく所に置いている。事故発生時には報告書を作成し、職員間での共有を図り事故予防につなげている。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、法人合同で年に2回、日中と夜間想定避難訓練や消火器の使い方の訓練を実施し、グループホーム単独での避難訓練も実施している。今年度は夜間の水害訓練を行い、実際の台風時に2階に避難して役だった。	法人全体で年2回、消防署の協力を得て、夜間、日中想定火災避難訓練が行われている。またグループホーム単独でも行われており、今年度は水害に関する避難訓練が行われた。その後避難勧告を受け、実際に避難する体験をされ、訓練が役立ったと伺った。緊急時のために、必要なものは1つの持ち出し用としてまとめられている。今後は地域との協力体制についても話し合っしてほしい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても常に敬う気持ちで接するように指導している。接遇の勉強会も行った。	一人ひとりの利用者に対して尊厳をもって接するように、言葉遣いや支援の仕方に思いを入れるように指導されている。マニュアルを整備され接遇研修として行われている。認知症があっても、その人のプライドや誇りを大切にする支援に取り組まれている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない会話の中から、本人の思いが引き出せるように努めている。入浴時や買い物時は利用者とマンツーマンで関われる為、良い機会ととらえている。買い物時も本人の希望に沿いながら、好きな物を選んでもらっている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとその人のペースで過ごせるように支援している。受診等で職員が不足した際は職員のペースになりがちである為、気を付けるように指導している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、その人らしい身だしなみが出るように支援している。口紅やマニキュアを塗って楽しむこともある。		



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「何か手伝う事ある？」と声をかけてくれ、調理やテーブル拭きを手伝ってもらっている。季節の食材を家人から頂き、一緒にメニューを考える事もある。好き嫌いが多く通常メニューが口にできない利用者には、特別に口にできるものを提供している。	現在は、管理栄養士が献立の立ててそれをもとに調理をしているが、季節の野菜などをいただいたら、メニューを変更して煮物を作ったりすることもある。オープンキッチンなので調理をしている音や臭いも近くで感じることもできており、食事を楽しむための環境は整っている。食事の準備や後片付けもできることは利用者をお願いしている。食事は、職員も一緒に楽しい時間となるように席にも配慮している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは一週間ごとに管理栄養士が作成している。水分摂取量についてはチェック表で把握し、水分摂取の確保に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。月に一回、訪問歯科医の往診があり、困った事があれば診て頂いている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、オムツに頼らずトイレ誘導を行っている。夜間もポータブルトイレを設置し、オムツ使用にならないように努めている	全職員は、排泄チェック表をもとにそれぞれの排泄パターンを理解した上でトイレ誘導や、ケアに入っている。定期的なトイレ誘導ではなく、あくまでも個々の排泄のリズムに合わせた支援を大切にしている。昼間は、全員トイレ誘導にて対応している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、個々の排泄状態の把握に努めている。水分をこまめに勧めたり、食事には海藻類やキノコ類、乳製品、食物繊維の多い物を提供できるように努めている。また、毎日のラジオ体操やレクリエーション、散歩に誘って身体を動かし、便秘予防に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援以外にも希望に応じて支援している。グループホームには個浴しかないが、扉を隔てて近くにデイサービスの浴室があり、寝台浴や座浴も状態に合わせて使用出来ている。体調不良時には清拭・足浴も行っている。入浴拒否があれば、無理強いする事無く時間を空けたり、日にちを変更することもある。入浴拒否が強い時は家人の協力を得ている。	定期的な入浴の支援は、週2回行っているが、個々の希望や生活のリズムによって、声かけの工夫をしたり、職員を変えての試みなど楽しく清潔保持もできるようにしている。体調の悪い時などは、清拭したり足浴などを組み合わせたりすることで、一人ひとりの体調などに合わせる支援も行っている。冬に柚子湯をしたこともある。入浴が苦手な利用者には、ご家族の協力をお願いすることもある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて休息がとれるようにしたり、使い慣れた毛布を持参して頂き、室温調整にも配慮して安眠できるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書をファイルし、いつでも目につく所に置いている。薬の内容の変化や状態の変化があれば申し送りノートや朝礼簿に記入し、職員間で共有できている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に伺った生活歴やその後知り得た情報を活用し、その方に合った楽しみ事の支援が出来るように努めている。好き嫌いがあっても外食なら食べたり、家人と一緒に食べたり出来る事から、気分転換も大切ととらえている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が利用者の希望を伺い、希望に沿った外出の支援を行っている。行事担当職員は、季節に合わせた外出の計画を立て実行している。全員参加が出来るように努めている。天気の良い日には、施設周辺を散歩している。犬の散歩をしながら地域の方と会話する事もある。全員でコウノトリの郷公園に出かけ、家族会や運営推進会議を開催した事もある。	真冬や真夏の出にくい季節には、施設内を歩かれることもある。また、近くの中嶋神社まで歩いたり、個別に好みの場所や自宅近くで車で出かけることもある。ほとんどの場合は全員で外出することが多い。少し遠出する場合には、出石そばを食べに出かけることもある。事業所で育てている犬の散歩の兼ねて、利用者も一緒に歩くことが多い。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理であるが、外出時やおやつ販売時には本人が使えるように支援している。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や不穏時には自由に電話で話せるように支援している。また、年賀状・暑中見舞い・お礼の手紙等を送れるよう支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の思い出の写真を壁に貼る事で利用者やご家族から喜ばれている。窓も広く季節を感じやすい。季節の草花や果物を飾り、居心地良く過ごせるように努めている。共用スペースが広く畳台やソファを置いている。	施設の一番奥にある事業所の入り口から中へ入ると、広がったスペースに、台所や食堂、共有のスペースがあって、見晴らしが良い。居室は両側に配置されて、トイレや浴室も出入りが分かりやすい配置となっている。広い窓が大きく、明るい陽射しが入り、利用者は個々に椅子やソファに座り、共用の空間は明るく季節も幹事やすくなっている。室温も過ごしやすい温度に設定されており、環境も静かで、広い窓の向こうには、このとりが飛んだりする。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が広く、犬の相手をしたり、窓から外を眺めたりと自由に過ごせている。ソファが好きな方や、フロアを行ったり来たりされる方、台所で調理の手伝いをして過ごす方等、自由に過ごせている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた物を持ってこられ、出来るだけ自宅に近い環境作りに努めている。壁には家族の写真を貼って本人が安心して居心地良く過ごせるように配慮している。	契約時から、居室にはなじみのある家具や持ち物を持参いただくように話をしている。見学した居室では、使い慣れた椅子や収納タンスなどを置いて、居心地良く暮らせるようにしていた。また、職員と一緒に作品を作ったり、家族との写真を飾っている居室もあった。それぞれに、生活スタイルや希望を聞いて工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーマットや介助バー、ポータブルトイレを使用して自立に向けた支援を行っている。グループホーム内は段差も無く、安全に過ごせるように配慮している。		